

# 熊大 建築展 2017

# 動

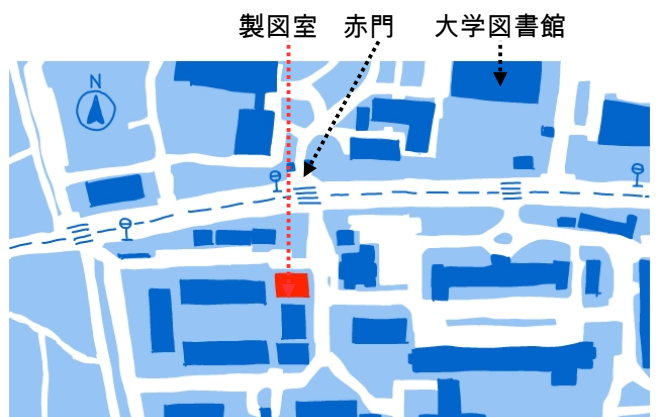
”動き”には様々な効果がある。例えば人間や動物は本能的に動くものを目で追ってしまう習性がある。これは身を守るためであったり、獲物を見つけ捕まえるためである。男の子が女の子のスカートやポニーテールなどをふと目で追ってしまうのも同様であろう。また、原子レベルで見ても実際に動いて見えるかは別として全ての物質は微振動し続けている。地球や宇宙だって絶え間なく動いている。”動き”それは全ての万物に共通している と言えよう。

先の熊本地震災害時、車内泊をした人も多いであろう。”家ごと安全な場所に移動できたらなあ”と思った人も少なからずいたはずである。キャンピングカーを所有していた人は多少は快適に安心して過ごせたに違いない。実際に、熊本地震の災害時にモバイルアーキテクト(動産建築)が役に立ったと言う事例も存在している。

一般的に建築は動かない。敷地に建ちそこから動かず人を包むものであると考えられている。しかし本当にそうだろうか。窓や扉などの一部分は動いているし、光の変化などの 時間的変化に対応して空間の質も変容している。さらには人が動くにつれて視点も移動し、相対的に建築は動いているとも考えられる。このように様々なレベルにおいて建築は動いている。その状況をほんの少し過剰に表す。本当は動いている建築をもう少し動かすと人と建築、人と物、そして人と人の関係性が変わっていく。

私たち熊本大学工学部建築学科3年はこの建築展2017でモバイルアーキテクトの歴史をたどり、それを足がかりに”動き”の観点から建築にアプローチすることで、建築の新たな可能性を探っていく。それと同時に、この機会をこれまでの学習の成果を発表する場とし、今後の建築のあり方、人々の暮らしのあり方を私たちだけでなく、来場者の皆様と一緒に考えていきたい。

**【期間】 11/3 (金) - 11/5(日)**  
**11:00~17:00 入場無料**  
**【場所】 工学部仮設校舎 製図室**



熊本大学工学部建築学科